

# プレカンファレンス セミナーについて

ESRI UC 2003 開催前の週末（7月5日～6日）に業種分野別のソリューションや、特定技術を対象としたのセミナーが各種開催されます。お客様のニーズに合う最新情報が詳しく紹介されます。またソフトウェアに関する講義では、ソフトウェア開発担当者が直接ご説明いたします。

## 申し込み方法

プレカンファレンス セミナーは事前登録制です。ESRI UC の参加登録時にお申し込みください。

- プレカンファレンス セミナーの料金は、ESRI UC 参加登録料とは別に費用をご負担いただきます。「参加登録料の免除」に該当する方も料金をお支払いいただきます。
- コースが定員に達し次第、申込みは終了となります。なるべくお早めにお申し込みください。
- 時間帯が重なる複数のコースへ同時登録は出来ません。
- お申込みの締め切りは、2003年5月9日までです。（2003年3月時点）

## セミナー一覧

7月5日(土曜日) 午後の部	
<b>ArcGIS アプリケーション開発の概要</b> <i>An Overview of Developing ArcGIS Applications</i>	初～上級レベル 150 ドル
アプリケーション開発者を対象に、開発における基本概念を紹介しします。ArcGIS のアーキテクチャ、開発環境の選択、開発者のリソースについて説明しします。	
<b>GIS のファジー ロジックとアプリケーション</b> <i>Fuzzy Logic and Applications in GIS</i>	初～中級レベル 150 ドル
様々な専門分野のアプリケーションで使用されている、数学理論“ファジー ロジック”の基本理念を紹介しします。現実世界のあいまいな事象を空間的データで解析する際の、ファジー ロジックの適用方法や実際の使用例を説明しします。	
<b>GIS と土木建築</b> <i>GIS and Civil Engineering</i>	初～中級レベル 150 ドル
土木建築や土木工事管理の GIS 使用実例を紹介しします。GIS 下水道システム構築過程のデータ収集、CAD データやシステム情報のデータベースとの統合が紹介されます。また、道路の舗装管理や水道ネットワーク システムの構築と管理例なども紹介されます。	
<b>GIS の運用（第一回）</b> <i>Managing a GIS</i>	初～中級レベル 295 ドル（昼食付き）
例年、好評を博しているセミナー内容に加え、最近のトレンドを反映したトピックが盛り込まれています。分散型 GIS と Web サービスとの統合、ジオデータベースのマルチ レイヤ トポロジ、データベースで管理する地図作成の可能性など盛りだくさんな内容です。	

( 7月5日 午後の部つづき )

<b>ArcIMS と ArcGIS で使用する Java テクノロジー</b> <i>Using Java Technologies With ArcIMS and ArcGIS</i>	中級レベル 150 ドル
ArcGIS 9.x と ArcIMS 4.x を使用したサーバ・クライアント側のアプリケーション構築についての理解を深めていただきます。J2SE や J2EE のトピック ( JavaServer Pages (JSP) ,JavaServer Faces (JSF) ,Enterprise JavaBeans (EJB) ) や Web サービスについて語られます。	

7月6日(日曜日) 午前の部	
<b>ArcGIS 8.3 での土地区画管理</b> <i>Introduction to ArcGIS for Land Records</i>	中～上級レベル 150 ドル
ArcGIS を土地区画管理に利用する方法を紹介します。ジオデータベースと ArcIMS を使用した区画図と査定データの作成、管理、共有についてヤトポロジやアジャストツールを使用しての GIS 土地区画管理の活用方法を紹介します。	
<b>お客様独自のジオグラフィーネットワークの構築</b> <i>Building Your Own Geography Network</i>	初～中級レベル 150 ドル
GIS 技術者や開発者の方を対象に、ジオグラフィ ネットワークを導入したインターネット GIS サイト構築の手順について説明します。	
<b>GIS の運用 ( 第二回 )</b> <i>Managing a GIS</i>	初～中級レベル 295 ドル ( 昼食付き )
例年、好評を博しているセミナー内容に加え、最近のトレンドを反映したトピックが盛り込まれています。分散型 GIS と Web サービスとの統合、ジオデータベースのマルチ レイヤ トポロジ、データベースで管理する地図作成の可能性など盛りだくさんな内容です。	
<b>ArcGIS Desktop のカスタマイズ(第一回)</b> <i>Customizing the ArcGIS Desktop:Part I</i>	中～上級レベル 150 ドル
COM に精通し ArcObjects のオブジェクトモデルを理解している開発者が、ArcGIS Desktop アプリケーションに機能を追加するための開発手順や高度な手法について詳細に説明します。	
<b>ArcGIS を使ったスタンドアロン アプリケーションの開発</b> <i>Developing Stand-Alone Applications Using ArcGIS</i>	中～上級レベル 150 ドル
ArcGIS をベースとしたアプリケーション開発の基礎を教えます。マップ表示、データ編集、マップ作成、分析などの機能や、開発に再度利用できるコンポーネントのコード例を紹介します。	
<b>GIS 技術者のための画像処理</b> <i>Geographic Imaging for GIS Professionals</i>	初～中級レベル 150 ドル
画像処理に関する基本知識を教えます。GIS アプリケーションで衛星画像や航空画像を使用する方法を、ArcGIS Image Analysis を使ったデモンストレーションを交えて紹介します。	

( 7月6日 午前の部つづき )

<b>水系 GIS 2003: 第一回 ArcHydro データモデルとツール入門</b>	初～中級レベル
<i>HydroGIS 2003:Part I Introduction to Arc Hydro Data Model and Tools</i>	150 ドル
ArcGIS を水文学( 水資源管理、水文学的解析 )で利用する方法について、米国 ESRI 社が開発した ArcHydro データモデルと関連ツールを基に説明します。	

7月6日(日曜日) 午後の部	
<b>ArcWeb サービスでアプリケーション構築</b>	中級レベル
<i>Building Applications With ArcWeb Services</i>	150 ドル
開発者対象に、ArcWeb サービスを使って大容量データセットと GIS 機能をブラウザ/デスクトップ アプリケーションに簡単に組み込む方法を紹介しします。	
<b>統合型 ArcGIS アプリケーションの構築</b>	中～上級レベル
<i>Building Enterprise ArcGIS Applications</i>	150 ドル
統合型 ArcGIS アプリケーションを開発する上での、設計やジオデータベースの効率的なプログラミング方法、パフォーマンスを向上させるヒントや裏技、アプリケーション配置の留意点などを紹介しします。	
<b>画像を使用した高精度フィーチャデータベースの作成</b>	初～中級レベル
<i>Creating an Accurate Feature Database Using Imagery</i>	150 ドル
ステレオ データ取得法を用いて、高精度で信頼度が高いフィーチャ データの作成法を説明しします。Stereo Analyst for ArcGIS を使って、ステレオ画像を使用したフィーチャ データセットの作成や編集方法をお見せしします。	
<b>ArcGIS 環境で SAS を使う</b>	初～中級レベル
<i>Creating Spatially Enabled Intelligence:Using SAS in the ArcGIS Environment</i>	150 ドル
SAS 社の製品 SAS Bridge for ESRI を使用して、ArcGIS 環境ですぐに利用できる様々な SAS の機能を紹介しします。	
<b>ArcGIS Desktop のカスタマイズ(第二回)</b>	中～上級レベル
<i>Customizing the ArcGIS Desktop:Part II</i>	150 ドル
開発者対象に、最もよく拡張されるアーキテクチャ部分( コマンド、ウィンドウ、プロパティ ページ、エクステンションなど )の説明をしします。	
<b>ガス・電気事業での GIS の有効活用</b>	初～中級レベル
<i>Expanding the Benefit of GIS for Utilities</i>	150 ドル
GIS は、ガス・電気事業において資産管理システムに利用するだけでなく、さらに有益な活用が可能です。マーケティング、経済開発、現地調査、インターネット上での GIS 活用法を紹介しします。	

( 7月6日 午後の部つづき )

<b>水系 GIS 2003: 第二回 Arc Hydro を用いた水系モデル</b> <i>HydroGIS 2003:Part II Hydrologic Modeling Using Arc Hydro</i>	初～中級レベル 150 分
Arc Hydro のデータ モデルと水文学のシミュレーション モデルの連携の進歩状況を説明します。また、ArcGIS 9 で利用可能となる ModelBuilder システムや XML の可能性についても考察します。	
<b>ArcIMS の設定と管理入門</b> <i>Introduction to ArcIMS Configuration and Administration</i>	中級レベル 150 分
分散環境での ArcIMS の設定と管理の有効な方法について、パフォーマンス、セキュリティー、信頼性に焦点を当て説明します。ArcIMS サービスのチューニングや安全なサーバの設立方法などを紹介します	
<b>ArcGIS の空間モデル</b> <i>Spatial Modeling With ArcGIS</i>	初～中級レベル 150 分
ArcGIS 9 のジオプロセッシングについて紹介します。ESRI 社のモデル ダイアグラム ツール (ModelBuilder) とスクリプトを使って、様々な空間モデルの作成方法を説明します。	
<b>GIS のためのシステム設計</b> <i>System Architecture Design for GIS</i>	初～中級レベル 150 分
GIS の設計・導入技術を中心に、システム設計モデルや機器構成のガイドラインを紹介します。	

<b>7月6日(日曜日) 終日の部</b>	
<b>エンタープライズ住所管理システムの開発</b> <i>Developing an Enterprise Address Management System</i>	中級レベル 295 分
エンタープライズ GIS での住所管理の必要性と計画から運用までの考察について、自治体での導入に焦点を当てて紹介します。	
<b>企業戦略の発展</b> <i>Developing an Enterprise Strategy</i>	上級レベル 295 分
GIS をツールとして使用して成功を収めている CAGIS グループの、企業理念、企業の変革、変遷する企業のリスク評価の概要を説明します。	
<b>グリッドとデータム：過去と現在</b> <i>Grids and Datums of the World - Origins and Current Use</i>	中～上級レベル 295 分
地図データの作成手法の変遷を知ること、旧来の技術で作成されたデータを最新技術で作成されたデータを結びつける方法を理解していただきます。	
<b>どうやって作るの？ - ArcMap での美しい地図の作り方</b> <i>How 'd They Do That? Creating Beautiful Maps With ArcMap</i>	中級レベル 295 分
美しい地図を作る方法と過程を通して、地図作成時に ArcMap がどのように動いているのかを理解していただきます。	

( 7月6日 終日の部つづき )

<b>VBA プログラミング入門</b> <i>Introduction to Programming ArcGIS With VBA</i>	初～中級レベル 295 ドル
これから VBA を使用した ESRI 製品のカスタマイズをするユーザーを対象に、COM の概念、ArcObjects ダイアグラムの読み方、VB editor、カスタマイズ ダイアログ ボックスなどプログラミングの基本を理解していただきます。午後からは、よく使われる ArcObjects クラスを紹介します。	
<b>ESRI 環境でのマーカ シンボル デザインと作成</b> <i>Marker Symbol Design and Creation for the ESRI GIS Environment</i>	中～上級レベル 295 ドル
良い地図には、良いシンボルの使用が欠かせません。ESRI の ArcScript サイトに多数のシンボルを提供している、Jim Mossman 氏が、シンボルやフォントの作成過程とそれに伴う問題と解決法を説明します。	
<b>リモート センシング技術で DEM 作成</b> <i>Remote Sensing Techniques for DEM Generation</i>	中級レベル 295 ドル
リモート センシング画像入手方法や、写真測量、LIDAR、IFSAR、サテライト RADAR、DEM 作成の画像処理システムの概念と用途を説明します。また、精度などについてコストとパフォーマンスの比較、アクティブ センサーデータの概要も説明します。	
<b>環境アプリケーションでの地形分析</b> <i>Terrain Analysis for Environmental Applications</i>	初～中級レベル 295 ドル
DEM 作成と地形分析ツールとアプリケーションについて紹介します。地形の属性値を使用した複雑で広域な環境のモデル化や地形分析のアルゴリズムなどを説明します。	
<b>モバイル GIS</b> <i>The World of Mobile GIS With ESRI</i>	初級レベル 295 ドル
午前の部では、ESRI のモバイル GIS の概要をデモを通して紹介します。午後の部では、実際にモバイル GIS を導入した米国 ESRI 社のビジネス パートナーやユーザーの方達のプレゼンテーションを行います。	

## 特別セミナー

下記のセミナーは特定分野の方向けに開催されます。また、一部のセミナーは別途参加登録が必要です。

<b>7月6日 (日曜日)</b>	
<b>PLTS を使用したデータベース製造とマップ シリーズ管理</b> <i>Database Production &amp; Map Series Management Using PLTS</i>	25 ドル
大規模な地図作成業務を行う組織のマネージャーや技術者を対象に、ESRI 製品の Production Line Tool Set (PLTS) の新バージョン version 3 をご紹介します。PLTS は、大容量のデータベースと連携して効率的にシリーズの地図を作成するのに使用されます。流れ作業用の PLTS ツールやシリーズの地図作成と管理などについて説明します。また、様々な環境への導入やカスタマイズについても触れます。 登録方法とイベントの詳細に関しては、こちら <a href="http://www.esri.com/plts">www.esri.com/plts</a> をご参照ください。	

(特別セミナー つづき)

<b>ジャーナリズムと GIS</b> <i>Journalism and GIS</i>	
ESRI 製品を使用しているジャーナリストがプレゼンテーションします。報道関係者もしくはジャーナリズムを専攻している学生はこのセミナーに無料で参加できます。また、ユーザー会の期間中は、実際に ESRI 製品に触れられるトレーニング セッションも設けられております。 登録方法とイベントの詳細に関しては、こちら <a href="http://www.esri.com/media">www.esri.com/media</a> をご参照ください。	
<b>Telecom and LBS サミット</b> <i>Telecom and LBS Summit</i>	ESRI UC 参加者は登録無料
通信会社 Telecom とロケーションベース サービスの LBS の合同プレゼンテーションです。Telecom は企業規模の GIS の導入について、LBS は ESRI のロケーションベース サービスの構築と導入について発表します。 登録方法とイベントの詳細に関しては、こちら <a href="http://www.esri.com/telecommunications">www.esri.com/telecommunications</a> をご参照ください。	

<b>7月6 - 8日</b>	
<b>エグゼクティブ セミナー</b> <i>Senior Executive Leadership Seminar</i>	595 ドル (昼食付き)
30カ国以上から、政治家、市長、企業の幹部がGISを使用した効率的な業務について話し合う、例年恒例のセミナーです。ESRI 社社長 Jack Dangermond 氏のセミナーやディスカッションなどが行われます。 登録方法とセミナーの詳細に関しては、以下の番号にお問い合わせください。 909-796-2853 (内線)1-1363	
<b>測量と GIS</b> <i>Survey and GIS Summit Bridging the Gap 2003</i>	495 ドル
測量業者対象の、測量と GIS の統合をめざす会議です。開会式には、世界各地の測量業者と GIS 技術者が招待されます。マップギャラリー、展示館、測量業者のプレゼンテーション、GIS ユーザーと測量業者の会合が行われます。 登録方法とイベントの詳細に関しては、こちら <a href="http://www.esri.com/surveying">www.esri.com/surveying</a> をご参照ください。	

本誌に記載される内容は予告無しに変更される場合があります。最新の情報を ESRI UC 公式ホームページ ([www.esri.com/uc](http://www.esri.com/uc)) にてご確認ください。